

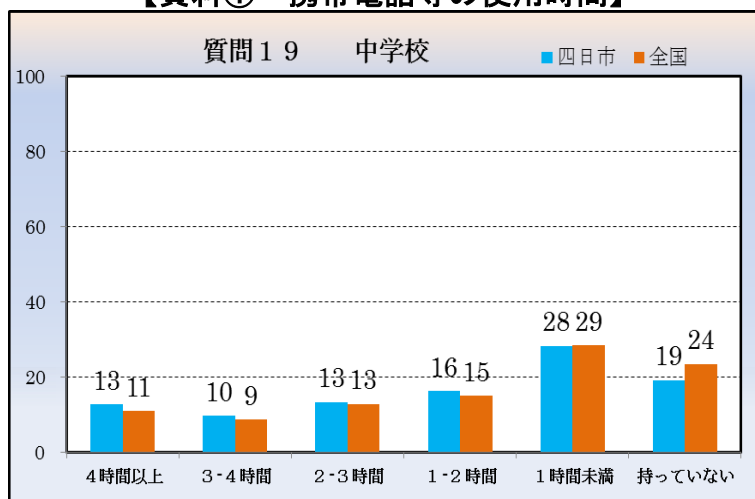
全国学力・学習状況調査結果 —第3部 学力と学習状況の相関について

第3部 今後の改善について

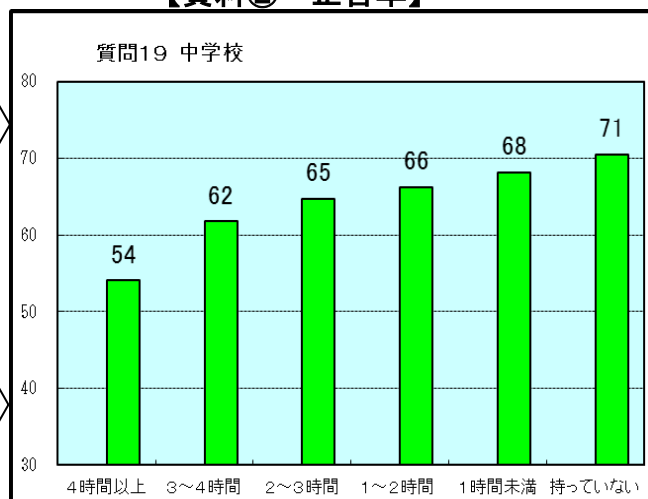
本通信の9・10号では、本年度の本調査結果から、朝明中学校生徒における①教科についての全国平均との比較、②強み・弱みの分析内容、③授業改善、④家庭学習状況についてお伝えしてきました。今回は、昨年にもご紹介した「学習状況」と「学力」の関連を、四日市市教育委員会の分析をもとに綴ってみたいと思います。

以下の資料①・②グラフをご覧ください。これは、平成26年度の本調査結果における携帯電話等の使用時間と平均正答率の相関を表したものです。グラフの見方としては、資料①で携帯電話等を1日あたり4時間以上使用している生徒は、資料②において平均正答率は54%となっているのに対し、1時間未満の使用している生徒は平均正答率が68%、携帯電話等を持っていない生徒については正答率が71%になっていることが分かります。このことから、教育委員会では「携帯電話等を使用する時間が長いほど、平均正答率が低下する傾向がみられる」と分析しています。

【資料① 携帯電話等の使用時間】



【資料② 正答率】



同様の分析から、以下のような状況の生徒の方が、平均正答率が高い傾向にあることがわかっています。

- ア 生活習慣がきちんと確立している生徒
- イ 学校のきまりを守っている生徒
- ウ 協調性や自尊感情が高い生徒
- エ 家の人と学校での出来事について話をしている生徒
- オ 夢や目標を持っていたり、難しいことでも失敗を恐れずに挑戦したりする生徒

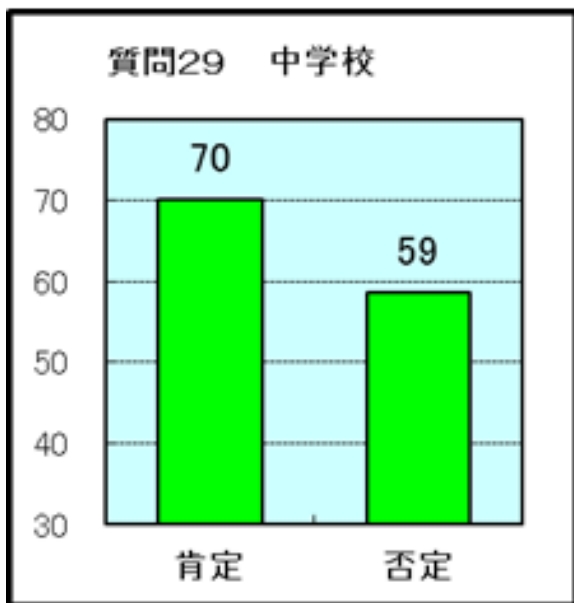


(裏面に続きます)

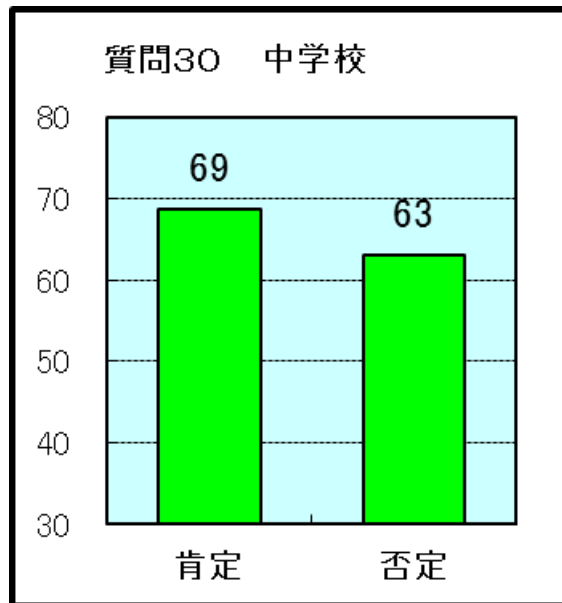
以上のようなことについて、かつて保護者の方に説明した際、「そうした傾向は、だいたい予想できることですよ」という感想をお聞きしたことがあります。確かに**ア～オ**のような傾向の生徒の正答率が低いとは考えにくいものです。

ただ、意外に感じたのが、以下のような質問に対する生徒の「回答」と「学力」の相関関係です。

【資料③】



【資料④】



資料③の「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか（質問 29）」に対して、肯定回答（当てはまるなど）した生徒の平均正答率は70%に対し、否定回答（当てはまらないなど）した生徒は59%にとどまっています。

また、資料④は、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか（質問 30）」に対する質問に対して回答した生徒の平均正答率でも肯定回答した生徒の平均正答率の方が、否定回答の生徒の平均正答率を大きく上回っているのが分かります。このことは、どのようなことを示しているのでしょうか。

言えることは、「社会や地域に関心を持つことは学力にも大きく影響する」ということではないでしょうか。そう考えると、2学期から本格的に各学年で開始される総合的な学習の時間の取組は、たいへん有意義であるといえます。

かねてからお伝えしておりますように、本年度、本校は「四日市版コミュニティスクール」に指定され、地域の方々のご協力のもと、地域理解や地域貢献を図る学習活動を展開しております。コミュニティスクールの主たる目的は、地域に開かれた学校を目指し、地域を見直し地域を愛する心を育むというのですが、資料③④に示されるように、コミュニティスクールとしての活動は、子どもたちの学ぶ意義や学ぶ意欲を高めていくうえで期待できるものと思われま

今後は、これまで取り組んできた授業改善や家庭学習の充実とともに、コミュニティスクールの取組を充実させながら、子どもたちの学ぶ意義や学ぶ意欲を育んでいきたいと思っておりますので、保護者・地域の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

※「和学鍛」はホームページにも掲載いたします。